

名古屋観世会

名古屋能楽堂 (名古屋城正門前)

令和5年3月12日(日)

12時30分開演 (11時30分開場)

能 清

経

シテ 山階彌右衛門

替之型

狂言

鐘の音

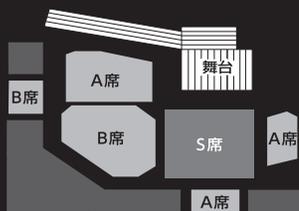
シテ 佐藤 友彦

能 杜

若

シテ 観世 清和

恋之舞



- S席 10,000円
- A席 8,000円
- B席 7,000円
- 学生券(25歳未満) 3,000円

※当日券は、500円増

お問い合わせ

名古屋観世会事務所 (久田勘鴨方)
〒451-0041 名古屋市西区幅下2-10-9

TEL(052)265-5158
FAX(052)446-6025

番組

仕舞

田村 蕪クセ

瀬戸洋子

伊藤裕貴
坂口貴信

仕舞

藤之段クセ

星野路子
今沢美和

地謡

岡久広
吉沢旭

仕舞

弓八幡
正クセ

吉沢旭
祖父江修一

地謡

杉浦悠一朗
関根祥丸

シテ 久田勘吉郎

シテ 山階彌右衛門

清経

替之型

飯富雅介

大鼓 河村裕一郎
小鼓 船戸昭弘

笛 鹿取希世

後見

祖父江修一
上田公威

地謡

吉沢旭
坂井音隆
本田勲
角幸二郎
松山幸親
観世三郎太
山中雅志
坂口貴信

狂言

鐘の音

シテ

佐藤友彦

アト 井上松次郎

後見 鹿島俊裕

休憩 二十分

能

杜若

シテ 観世清和

恋之舞

飯富雅介

大鼓 河村眞之介
小鼓 後藤嘉津幸

太鼓 加藤洋輝
竹市 学

仕舞

高砂
花クセ

観世三郎太
岡久広

地謡

久田勘吉郎
清水義也
角幸二郎
関根祥丸

後見

坂口貴信
上田公威

地謡

杉浦悠一朗
坂井音隆
井上裕之真
角幸二郎
関根祥丸
岡久広
山中雅志
清水義也

(四時半頃終了予定)

◆清経(きよしね)

【あらすじ】平清経は筑紫の戦に敗れ、雑兵の手にかかるよりはと、舟に形見の髪を残し、柳が浦にて入水して果てました。家臣の淡津三郎が形見の髪を持つて都に持ち帰り、清経の妻に会い仔細を報告します。妻は、自殺するとは約束が違うではないか、と形見の髪も受け取らず、仮寝してしまいました。夢に清経が現れ、妻が「戻ると言ったのに、約束が違うではないか、恨めしい！」という、清経も「折角の形見をなぜ突き返すのだ」と言い合います。清経は、神仏にも見放された、つらい流浪生活を語り、自分の最期のことどもを話し、妻の理解を得ようとします。と、突然修羅道の因果の様子を見せませんが、最期の十念の御法のおかげで成仏できたことを伝え喜び、消えていきます。

◆杜若(かきつばた)

【あらすじ】東国行脚の旅僧が三河の国に着きますと、沢辺の杜若(かきつばた)が今を盛りと咲いています。僧が花を眺めていますと、一人の女が現れ、ここは八橋という杜若の名所だと伝えます。そして伊勢物語にも八橋の由来が書いてあり、かきつばたの五文字を句の上においた業平の歌を紹介します「唐ころも 着つつ馴れにし 妻しあれば 遥々来ぬる 旅をしぞ思ふ」。女は業平の跡を語り、見苦しいかと、僧を自分の庵に案内し一夜の宿を勧めます。やがて女は初冠に唐衣の姿で現れ、この衣が歌に詠まれた唐衣で高子(二条の后)の後の御衣で、初冠は業平の形見の冠だと云います。僧が不審に思い尋ねると、自分は杜若の精であると明かす、また業平は極楽の歌舞の菩薩の化現なので、詠む和歌の言の葉までもがみな法身説法の妙文で、草木まで露の恵みで成仏するのですよと語り、伊勢物語や業平について語り、舞を舞い、やがて消えていきます。